

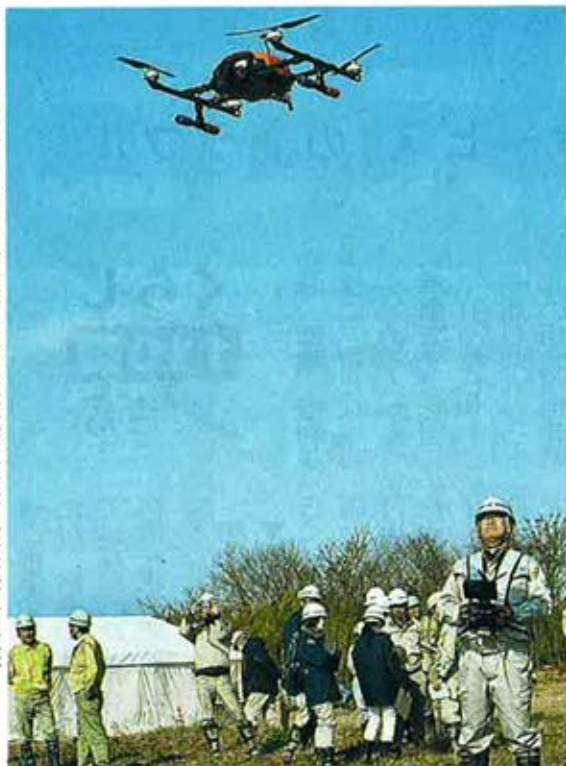
市川工務店が現場測量実験 無人機で撮影、3D化

市川工務店(岐阜市鹿島町、小川弘社長)は25日、岐阜市今嶺の長良川左岸で行っている河道掘削工事現場を小型無人航空機(UAV)で撮影した写真を合成、3Dモデルデータ化する実験を公開した。

国は土木工事の調査から設計、施工、維持管理までの流れに3次元データを活用し、生産性向上を図る「CIMモデル」を推進している。同社は昨年からの取り組みを開始。この日は約7万平方メートルの掘削工事現場をUAVで上空50メートルから事前に空撮、写真300枚を合成した3Dモデルを公開した。

開。UAVを操作、撮影するデモも行った。この広さの現場の場合、従来のTS測量では測量だけで約2日かかるというが、UAVでの撮影は10分程度。合成処理で得た測量データをTSのデータと精度比較したが、差は全般で30%程度で十分活用できるものだった。堆積土量の計測や、立ち入り困難や災害箇所形状把握にも威力を発揮するという。

同社の担当者は「線をつなげる測量から面の測量になり、付加価値化や省力化にも効果がある。精度をさらに高め、早期の導入を検討したい」と話した。



試験測量のため、上昇する無人航空機。岐阜市今嶺、長良川左岸